大阪城
2020 6/15 (月) 14078号
金港湾西成分会
ジムイ 6647-4947

昏、関西は梅雨に入ったが、沖縄は、はや梅雨明けだという。小さな島の列島の日本。南北にかなり細長く存在する。

6/7(日)、県議会選挙(48人)のあった沖縄では、革新玉城デニー県政が過半数をとり4年間、オール沖縄を実践するようだ。

あさって国会もしまり、6/18からは東京の都知事選挙(7/5)で、首都は、コロナの下、変った選挙の風景が生れそうである。

コロナの下の社会で、づぼらやが閉店(9/15)、食いもの関係ではフレンドリーやモスバーガーなど店をへらしていくようだ。政治、経済もふくめこの変化の波と流れは、一つの節目としては、日本では、来年の秋ごろまで深化していくのではないだろうか。もちろん、世界的には11/3(火)のトランプが沈没して(政治的に)死ぬか再選されるかが、大きな節目だろうが、これからのアメリカも何がおこるかわからない姿に突入していくだろう。

自分の身のまわりと身体は、日々、同じことのくりかえし、コロナと愁中症に殺されないように動く日常だが、それはそれで重たい攻撃でもある。

地獄のような社会 ～ 営業するも地獄、自粛するも地獄、そして破産することも許されず

…「発端は東京地裁が東京弁護士会など都内の3つの弁護士会に4月に送った通知だ。「不急の申し立ては控えるように」。関係者によると、そう読み取れる内容だったという」（11日付日経電子版「都の倒産件数が前年割れ　コロナ禍での「異変」」）

東京都小池知事の立候補に合わせて自粛解除

営業するも地獄、営業自粛するも地獄。そして破産も許されずに負債と不良債権だけが膨らんでいく……。まさに地獄絵図のようだ。

単純なIT化の遅れによるものであるならまだしも、「倒産爆発 重大局面」にあることを隠ぺいするために司法が忖度したものだったとしたら大問題。

忖度ではないと信じてはいるが、財政的制約と歪んだ効率化によって医療分野の脆弱性が露呈したうえに、効率化を目指すなら当然やっておくべきIT化も疎かにされていたことが明らかになったことは恐ろしいことだ。こうした問題は「戦後最長の景気拡大」を続ける中で起きたことなのだから。

新型コロナウイルス感染拡大が日本社会の歪みや弱点を炙り出した格好。過ぎ去ってしまった「時間」は取り戻すことは出来ないが、「コロナ後」にはこうした問題を可及的速やかに是正しなければならない。日本社会には二度と「時間」を浪費する余力はないからだ。

金融評論家　近藤駿介

まるで無観客試合みたいな センターの労働市場。復活の兆し見えず